



11月 土居隣保館カレンダー



日	月	火	水	木	金	土
		1 からてきょうしつ 空手教室	2	3 ぶんかひ 文化の日	4	5 もっこうきょうしつ 木工教室 10:00~
6	7	8 からてきょうしつ 空手教室	9	10 λ0-170ビ ック 10:00~	11	12
13	14	15 からてきょうしつ 空手教室	16 しゅうがくまえ ごうどう 就学前 合同 ぶかいけんしゅうかい 部会研修会 19:00~	17 λ0-170ビ ック 10:00~	18	19
20	21	22 からてきょうしつ 空手教室	23 きんろうかんしゃひ 勤労感謝の日	24	25 ゆうゆう 悠遊クラブ 14:00~	26
27 じんけん 人権のつどい	28 しよくぎょうそうだん 職業相談 10:00~	29 からてきょうしつ 空手教室	30			

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、予定が変更・中止となることがあります。

隣保館では、人権相談や職業相談を行っています

悩んでいることはありませんか？

隣保館は、いつでも人権に関わる悩みを相談できる窓口です。「職場でのハラスメント」、「職場や学校に行けない」など悩みがありましたら、何でも相談してください。

また、毎月25日（原則）は、ハローワークの巡回相談（職業相談）を行っています。巡回相談は、電話による予約制となっています。

土居隣保館便り

令和4年
11月号

発行：土居隣保館 〒799-0703 土居町藤原 5-400-3 TEL/FAX 28-6356



土居隣保館は、社会福祉法に基づき地域住民のコミュニティセンターとして、社会

福祉の充実や増進を図るとともに、同和問題をはじめとするあらゆる人権問題の解決

を図るために設置された施設です。人とひとが交流を図り、誰もが住みよい地域づく

りの拠点として、相談事業、各種講座や学習会、貸館事業など「人権と福祉のまちづ

くり」の実現に向けて、さまざまな隣保事業に取り組んでいます。

皆様のご来館をお待ちしています！

にんげんあい さべつかいしょう はは えぐち
人間愛をもって 差別解消の母 江口いとさん②
さべつ た む あい
～差別に立ち向かう大きな愛～



1 子ども会発足

○ 差別を許さない仲間をつくる

とうじ の いとさん の むら は とても ます 貧しく、がっこう へ いく こと が できない 子ども たちが たくさん いました。いとさんは わがこ だけで なく、むら の 全ての 子ども たちが ぐんやかに 育て ほしい と 考え ました。そして、1950年10月、自宅に村の子どもたちを集めて子ども会を発足しました。

○ 子どもの心を繋ぐ

いとさんの自宅子ども会は始まりました。そこでは、がくしゅう する だけでなく 遊びも 取り 入れ、ひと と ひと の づな を 深め、差別に立ち向かっていく 心を 育て ました。子どもたちは 仲間 として つながって いました。

いとさんが一人で始めた子ども会ですが、次第に学校の先生も参加するようになりました。子どもたちの未来を思い、いとさんが愛情いっぱい育てた子ども会は70年以上たった今もつづき、子どもたちの仲間づくりの場となっています。

いとさんの短歌

この子らの世には榮えよ 悲しみの我が半生をかけて 尽くさむ

「茨を超えて」より

2 受けて立つ差別

○ 明るい希望の中で

いとさんは自分の子どもだけでなく、むら の 子ども たちにも 愛情 を 注ぎ、まいにち いっしょうけんめい 生きて いました。また、差別をなくすための 取組 も 行 われる ようになり、いとさんの村も生活環境が 整い 生活も 安定 して きました。その頃のいとさんは、子どもの成績さえよければ、どんな会社にも 就職 できると 思っ て いました。そして、一生懸命生きていれば差別など受けるはずはないと 確信 して いました。

○ 長男の苦しみ

長男が高校を卒業迎える年になりました。いとさんは強く進学を望みましたが、「母にこれ以上苦勞をかけたくない。」と言って、就職を選びました。成績優秀だった長男の就職

をいとさんは心配していませんでした。しかし、周りの友だちの就職が決まっても、長男の就職は決まりませんでした。入社試験で良い成績をとっても身元調査により不採用になり、何度も悔しい思いをしました。そんな中、知人の紹介で就職が決まりました。会社では友だちもでき楽しく出勤していました。しかし、会社で心無い差別を受けてしまいました。いとさんは、長男を励ましましたが、長男は憤り苦しみました。そんな時、小学校時代の校長先生が、新たな職場と生きる道を示してくれました。

○ 家族・仲間とともに

その後、長男は苦しみの中から立ち上がり、市役所に就職したのち、差別をなくすために先頭に立って活動を続けました。そして、素晴らしい人と出会い結婚を決意しました。その時にも差別を受けましたが、差別を許さない仲間を支えられ、温かい家庭を築くことができました。

○ 差別を許さない思いを全国に

いとさんは差別をなくすために日本全国をまわって自分の思いを訴えていきました。いとさんの講演会にはいつもたくさんの方が集まりました。いとさんは人を責めるのではなく、大きな愛で人々を包み込みました。しかし、その根底には差別は許さないという強い思いがありました。多くの方が、話を聞いて涙を流し、差別することの醜さを知り、自分の生き方を見直す力をもらいました。

人間の命は地球より重い。差別は、その人の命をも奪う凶器であり、断じて許すべからざる罪悪である。 「土居町人権宣言」より

令和4年6月30日(木)に、四国地区人権教育研究大会県内報告会が松山市で行われ

ました。中予の幼稚園の報告のなかで、江口いとさんの「人の値打ち」を読んで職員で研修

し、差別をなくそうという思いを確認し合いながら、保護者啓発に取り組んでいるという報告

がありました。何年経っても、いとさんは私たちに大切なことを教えてくれているというこ

とを深く思いました。同時に、差別のない社会の実現を願い続けたいとさんの、厳しくて、強

くて、優しい笑顔を思い出しました。私も今の立ち位置を確認し、新たな一歩を踏み出します。